

会 議 録

会議の名称	豊中市特別職報酬等審議会		
開催日時	令和5年(2023年)11月21日(火) 14時30分～16時00分		
開催場所	豊中市役所別館3階研修室	公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部不可
事務局	総務部人事課	傍聴者数	0人
公開しなかった理由	—		
出席者	委員	河本良昭、土井潔、中野義澄、藤原節子、重長寿典、池野由香里、阿部昌樹、松木稔(計8名)	
	事務局	(説明員) 総務部長 榎本弘志 総務部人材戦略長兼人事課長 吉村光博 総務部職員課長 保井大進 財務部財政課長 岩佐恭子 市議会事務局長 加嶋隆 市議会事務局総務課長 吉岡生香	
	その他	総務部人事課 岩下良輔、末次菜穂、竹口百合、丹野堅次 総務部職員課 鎌谷麻里	
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 特別職の報酬等について 2. 特別職等の期末手当について 3. 市長および副市長の退職手当について 4. 政務活動費について 5. その他 		
審議等の概要 (主な発言要旨)	別紙のとおり		

審議等の概要（主な発言要旨）

1. 会長の挨拶

審議会の開催に先立ち、会長から次のような挨拶があった。

（要旨）

特別職の報酬等につきまして、前年度に引き続き諮問はありませんが、本日は、他市の状況や本市の財政状況のほか、政務活動費の収支報告などにつきまして、事務局から説明のうえ、ご意見を伺えればと考えております。

2. （案件1）特別職の報酬等について

事務局から資料「豊中市特別職報酬等審議会関係資料」に基づき、豊中市の特別職報酬等の状況や大阪府内や近隣都市・類似都市の報酬等の動向、議会の活動状況などについて説明を行った。

続いて資料「豊中市財政関係資料」に基づき、本市の財政状況について説明を行った。

（質疑・意見交換）

その後の質疑・意見交換では、次のような発言があった。

委員：長期的に見ると本当に報酬額が上がっていないという印象である。特別職だけではなく日本全体の給与水準がそうなのかもしれないが、30年くらいほぼ同水準で維持されている。

委員：令和4年度の各会計決算総括表において、病院事業会計は前年度繰越欠損金としてマイナス、水道事業会計、公共下水道事業会計においては前年度繰越利益剰余金としてプラス計上されているが、違いに意味はあるのか。

事務局：病院事業会計においては、令和3年度まで赤字が続いていたため欠損金が生じておりマイナス計上されている。令和4年度においては、新型コロナウイルス感染症の関係で国から補助金が出た影響もあり、黒字となった。

委員：大きな黒字を出すことが公立病院の経営の正しいあり方かについては、議論の余地がある。その他の特別会計については、一般会計からの繰入れはなく、黒字になっているという理解でよいか。

事務局：一部、一般会計から繰入れを行っている。

委員：健全な財政状況であることは理解したが、今後の財政運営に関して懸念材料はあるのか。

事務局：実質赤字比率、実質公債費比率などについては財政健全化との判断が出てはいるものの、令和7年度に児童相談所の開設、令和8年度には新たな義務教育学校の開校が予定されているなど、今後、建設費の増大が予想される。加えて、物価高騰、人件費の増大など、財政運営に関する課題は山積している。財政基盤の健全化については、国の動向も踏まえつつ、引き続き検討していきたい。

委員：物価高騰で大変な思いをしているのは民間だけではなく公務員の方も同じだと思う。人事院勧告は根拠をもって出されている数字であるため、人事院勧告に準拠した対応をされるのがよいと考える。

委員：事務局の説明により、市の財政状況、近隣他市・類似都市と比較して、妥当な水準で報酬額が決められていることが確認できた。

3. (案件2) 特別職の期末手当について

事務局から資料「豊中市特別職報酬等審議会関係資料」に基づき、豊中市の期末手当の状況、大阪府内や近隣都市・類似都市の期末手当の動向などについて説明を行った。

(質疑・意見交換)

その後の質疑・意見交換では、次のような発言があった。

委員：議員の期末手当が0.1月分少ないのは、議会の自主的な判断なのか。

事務局：前年度において、人事院勧告に基づいて0.1月分期末手当を引き上げる条例改正案を上程したが、議会で否決されたため4.3月になっているものである。

4. (案件3) 市長及び副市長の退職手当について

事務局から資料「豊中市特別職報酬等審議会関係資料」に基づき、豊中市の退職手当の状況、大阪府内や近隣都市・類似都市の退職手当の動向などについて説明を行った。

5. (案件4) 政務活動費について

事務局から資料「政務活動費関係資料」に基づき、豊中市の政務活動費の状況、大阪府内や近隣都市の政務活動費の動向などについて説明を行った。

(質疑・意見交換)

その後の質疑・意見交換では、次のような発言があった。

委員：令和4年度の執行率が71%と低く、金額でいうと約800万円が使われていない。市民の立場として、無駄な支出は抑えたいという必要なものには活用いただきたいと考えており、全体として抑制すれば良いという雰囲気はいかがなものか。使用用途は説明できるようにしたうえで、より有効に活用いただきたい。

委員：政務活動費の適正な執行については、しっかりと確認されているのか。

事務局：事務局において、議員から提出された資料を確認しており、無駄な支出はないと考えている。

委員：海外出張旅費については活動費の対象外ということだが、国の基準なのか。または、市独自の基準なのか。

事務局：国の基準において禁止しているものではなく、豊中市議会として、海外視察は政務活動費を充当できないと決めているものである。近年、新型コロナウイルス感染症の影響により視察を行えない状況が続いていたが、今年度より少しずつ視察の機会が増えてきている。そのような状況もあり、政務活動費の海外視察への充当の可否については議会改革の中で議論がなされたが、引き続き調査・研究が必要であるとの見解に至った状況である。

6. (案件5) その他

(質疑・意見交換)

その後の質疑・意見交換では、次のような発言があった。

委員：特別職の報酬等の検討に際して、市の財政状況や一般職・近隣他市との比較だけでなく、豊中市の世帯収入状況などの市民視点の資料を取り入れていただくと、検討しやすくなるのではないか。

事務局：現状においては、人事院勧告と同程度の精緻な調査を市で実施することは難しいと考えている。しかし、特別職の報酬を検討するに際して、地域の特色に沿った資料が必要であるとのことをご意見を伺いまして、今後、市内の状況や他市の動向を踏まえて検討していきたい。

(審議会終了)